2027年3月期 第2四半期
決算説明資料

2026年12月1日

油研工業株式会社
代表取締役社長　宮坂 篤

東証スタンダード：6393

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

本日お伝えしたいこと

YUKEN
Living with Hydraulics

2027年3月期 第2四半期・通期見込

■ 2027年3月期 第2四半期決算
・中国市場の回復と、順調に拡大するインド市場により、増収増益で着地
-日本　：堅調な設備投資あるも収益力に課題
-中国　：設備投資の回復に支えられ堅調に推移。厳しい価格競争は継続
-インド：増収増益基調。生産増が課題

■ 2027年3月期 通期見込
・当初計画から変更せず。第２四半期では計画を上回るも、上方修正には時期尚早と判断し、現時点では当初計画を据え置く
配当額は安定的な配当方針通り1株当たり150円を維持（中間配当：60円）

新中期経営計画（Step2）（再掲）

■ 2028年3月期までの3ヵ年（Step2）の2年目中盤
■ 2028年3月期達成目標と足下（2027年3月期見込）状況
①売上高 370億円　⇔　売上高345億円
②営業利益・経常利益 30億円　⇔　営業利益17.5億円・経常利益17億円
③ROE 8%以上
■ インド成長の取込み、グループ内生産拠点の連携強化、グローバル戦略製品の市場投入を成長ドライバーとして成果を発揮し、次のステージへ

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

目次

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2027年3月期 第2四半期決算の概要
Ⅲ. 2027年3月期 通期決算予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2027年3月期 第2四半期決算の概要
Ⅲ. 2027年3月期 通期決算予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

会社概要（会社規模、事業内容）

YUKEN
Living with Hydraulics

会社規模

- 創業70周年、東証スタンダードに上場する唯一の専業油圧機器メーカ
- 連結売上高:328億円、連結経常利益:16億円（2026年3月期）
- 従業員数　:1,412名（連結）、373名（単体）（2026年9月期）
- 主要工場　:国内2（相模事業所/神奈川県、袋田工場/茨城県）、
  海外3（台湾、中国、インド）
- 連結子会社:国内2、中国4、インド2、台湾1、韓国1、タイ1、イギリス1

事業内容

- 油圧製品（ポンプ･バルブ等）製造販売
  - ・成形機、ダイキャストなどあらゆる産業機械向けに供給
  - ・補用品としての需要も大
- システム製品製造販売
  - ・製鉄機械、インフラ関連など複雑な機能を必要とするシステム製品
  - ・工作機械など小型、省エネなど特異な機能を必要とするシステム製品
- 環境機械製造販売
  - ・資源化物をリサイクルするための中間減容プレス機を製造販売

※資源化物･･･PETボトル、容器包装プラスチック、飲料缶、金属切削くず等

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

会社概要（製品構成）

YUKEN
Living with Hydraulics

油圧の特長

・油圧とは電気と同様に動力伝達方法の一つです。
・電気と比べ小型で大きな動力を伝達できるのが特徴です。油圧の用途は主に力で物を動かすことですが、小さな体格で大きな物を動かせます。
・油圧機器には動力を油圧に変換するポンプ、力の大きさ、向き、速度を制御するバルブ、仕事をするアクチュエータ、これらを正常に保つ補器、運転状況を測る計器などが有ります。昨今は電気技術との融合で繊細な制御も可能です。

油圧製品

・油圧を利用するための各種機器
・圧力を発生させる油圧ポンプ、仕事の3要素（圧力・流量・方向）を制御する各種バルブ等で構成

主要製品
❶油圧ポンプ・モータ
❷油圧制御弁
❸各種油圧制御機器

❶


❷


❷


❸


システム製品

・各種油圧機器や電動機、附属機器類を最適な形で組み合わせた油圧装置（＝油圧ユニット）
・ポンプから供給される流体エネルギーを直線往復運動に変換するシリンダ

主要製品
❶産業機械油圧システム
❷標準油圧ユニット
❸油圧シリンダ

❶


❷


❸


環境機械

・油圧事業のユーザと競合しない分野の油圧駆動機械
・1990年代以降の環境問題への関心の高まりに対応し、リサイクルなど環境負荷低減に貢献

主要製品：
❶自動切屑圧縮機（KIRIKO）
❷自動ＰＥＴボトル減容機

❶


❷


© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

会社概要（当社の需要分野）

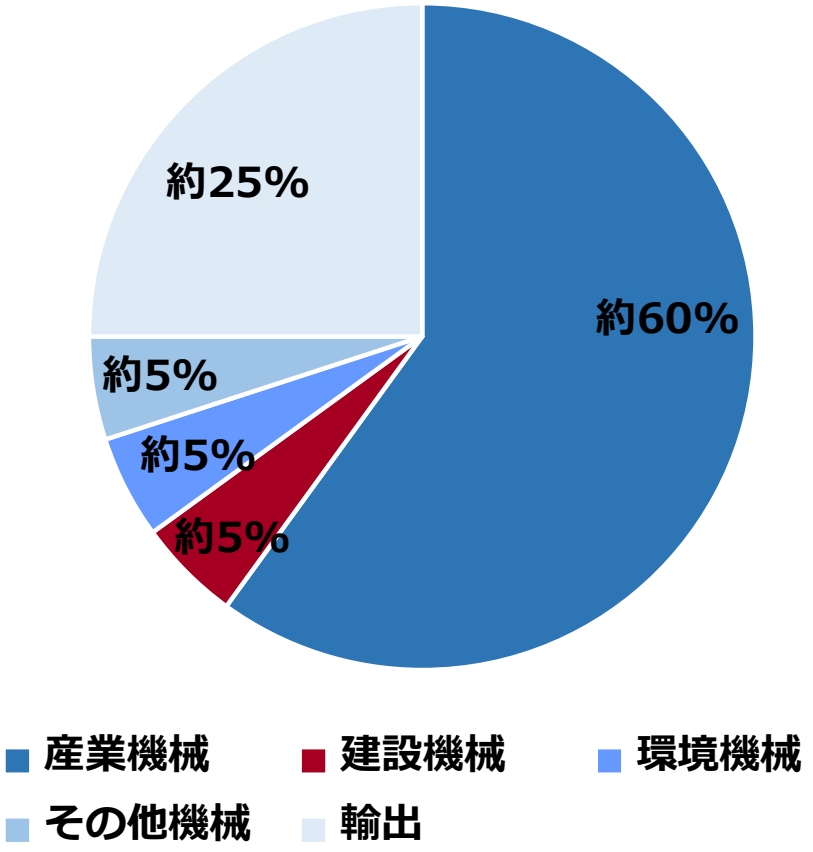
得意とする需要分野

■産業機械
・製鉄機械、鍛圧機械、工作機械、鋳造機械、成形機、試験機など

■インフラ関係
・水力・火力発電所設備、上・下水処理施設、空港設備、港湾設備など

■船舶・車両関係
・貨物船、フェリー、フォークリフト、特殊車両、建設機械など

当社の単体売上構成比率



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2027年3月期 第2四半期決算の概要
Ⅲ. 2027年3月期 通期決算予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期 実績サマリー

YUKEN Living with Hydraulics

前年同期比増減

単位：百万円

	2026年3月期 第2四半期 実績	2027年3月期 第2四半期 実績			
			増減率	2026年5月予想	予想比
売上高	15,944	17,072	7.1%	16,500	+3.5%
営業利益	883	947	7.2%	800	+18.5%
経常利益	722	1,005	39.1%	700	+43.6%
純利益	449	621	38.2%	400	+55.3%

（注1）純利益は親会社株主に帰属する中間純利益
（注2）為替期中平均レート（'27/3期上期実績）　1USD＝160.02円

売上高

■日本市場はサービス部門の前年同期比減もJPN（株）連結により微減。中国・韓国は売上回復。
インド市場は活況で大幅増収。連結売上高は前年同期比+7.1%の増収

利　益

■営業利益：中国・韓国の売上回復、インド好調により増益（前年同期比+63百万円）
■経常利益：為替は差損（▲153百万円）から差益（+61百万円）となった影響が大きく、大幅増益
■純利益　：前年同期比38.2%増益となる621百万円を確保

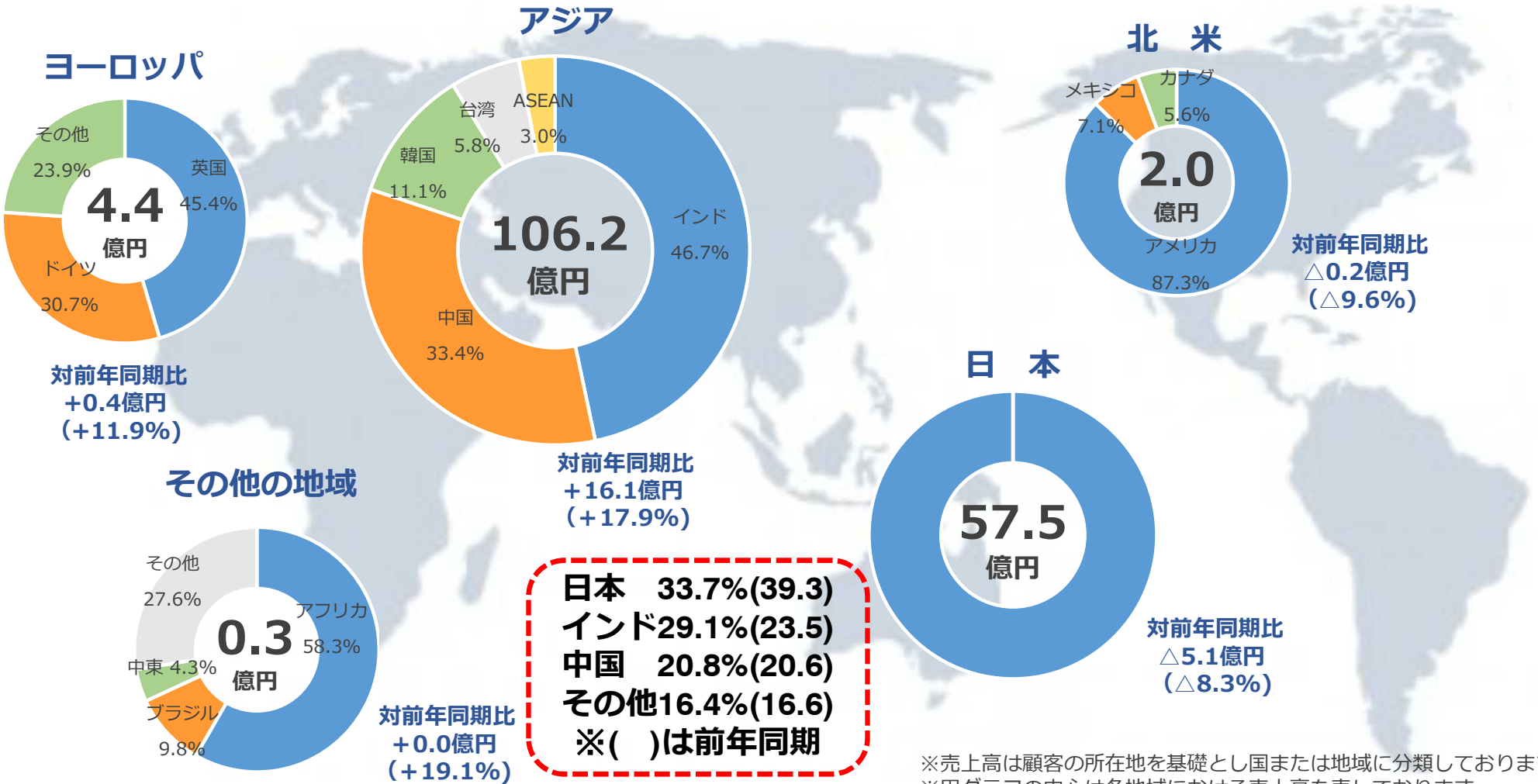
© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期 地域別売上高

地域別売上高（連結消去後）

単位：百万円

日本	アジア	北米	ヨーロッパ	その他	合計
33.7% 5,752	62.3% 10,629	1.2% 202	2.6% 449	0.2% 38	17,072

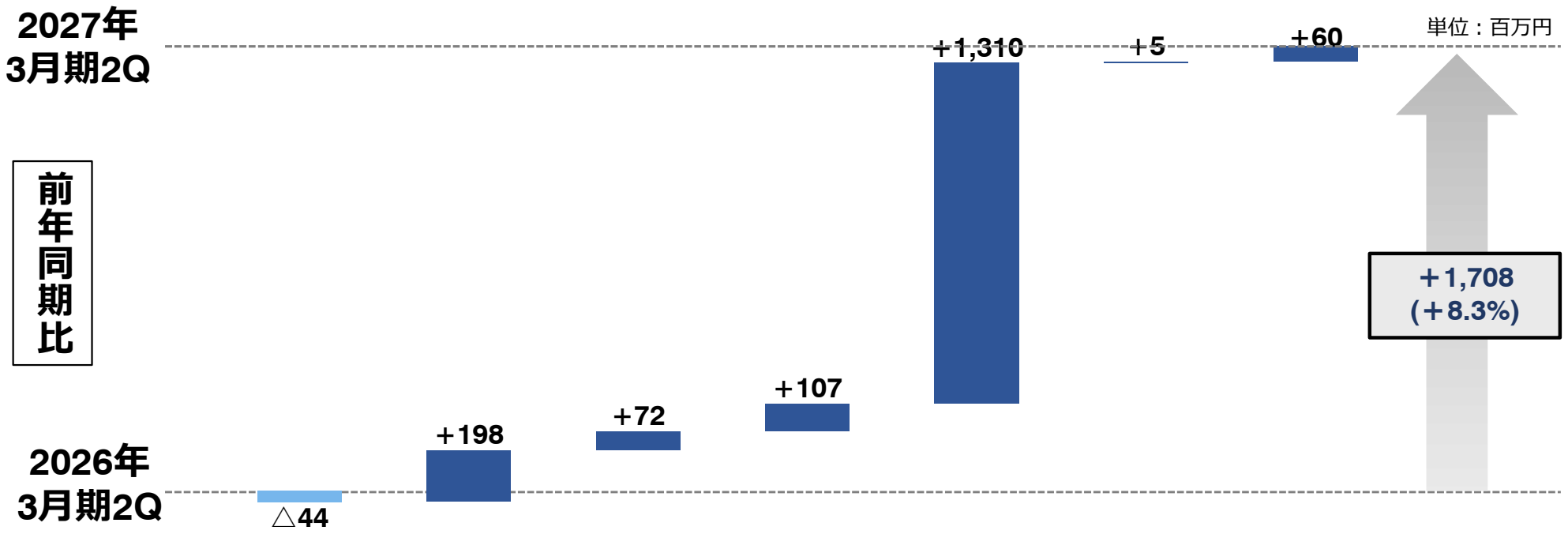


※売上高は顧客の所在地を基礎とし国または地域に分類しております
※円グラフの中心は各地域における売上高を表しております

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期 所在地別売上高

（ご参考：連結消去前）



	日本	中国	台湾	韓国	インド	アセアン	欧州	合計
2026年3月期 第2四半期	8,589	4,026	2,687	898	3,893	314	284	20,691
2027年3月期 第2四半期	8,545	4,224	2,759	1,004	5,203	319	344	22,398
増減	△44	+198	+72	+107	+1,310	+5	+60	+1,708

（注）日本：'26年3月期 第2四半期は油研工業(株)・(株)ユケンサービスの合計
'27年3月期 第2四半期は油研工業(株)・(株)ユケンサービス・JPN (株)の合計
中国：油研 (上海) 商貿有限公司・油研 (仏山) 商貿有限公司・油研液圧工業 (張家港) 有限公司
油研工業 (香港)有限公司の合計
インド：YUKEN INDIA・GROTEKの合計

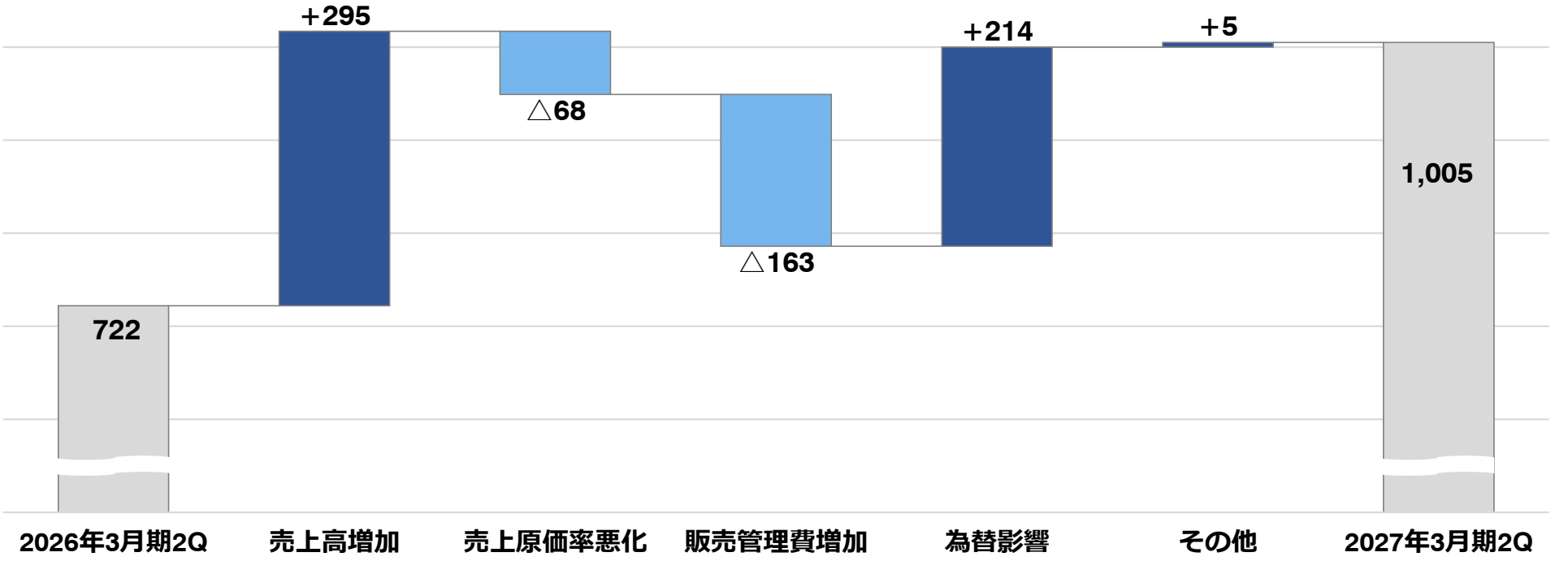
© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期 経常利益増減要因

主な前年同期比増減要因（経常利益）

売上高増加	■中国市場の回復、インド市場の拡大
売上原価率悪化	■労務費、材料費、治具等の上昇により売上原価率悪化
販売管理費増加	■人件費、物流費等のコスト増が影響

単位：百万円



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期 連結貸借対照表

単位：百万円

	2026年3月期	2027年3月期 第2四半期	増減
資産の部			
流動資産	30,595	30,562	△32
固定資産	18,102	19,548	+1,446
資産合計	48,697	50,111	+1,414
負債の部			
流動負債	13,258	12,087	△1,170
固定負債	7,749	9,121	+1,371
負債合計	21,008	21,208	+200
純資産の部			
株主資本	18,220	18,519	+298
その他包括利益累計額	5,260	6,189	+928
非支配株主持分	4,208	4,193	△14
純資産合計	27,689	28,902	+1,213
負債純資産合計	48,697	50,111	+1,414

■資産の部　：現預金△397百万円、売上債権△488百万円、棚卸資産+683百万円、有形固定資産+627百万円
■負債の部　：借入金△284百万円（D/Eレシオ:0.43倍、ネットD/Eレシオ:0.12倍）、仕入債務+531百万円
借入金残高　短期借入金5,025百万円、長期借入金5,515百万円、計10,540百万円
■純資産の部：株主資本+298百万円（内、資本剰余金△1百万円、利益剰余金+301百万円）
その他包括利益累計額+928百万円（内、その他有価証券評価差額金+733百万円、為替換算調整勘定+214百万円）

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	695	1,701	+1,005
投資活動によるキャッシュ・フロー	△940	△1,499	△559
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,339	△647	△1,987
現金及び現金同等物に係る換算差額	△361	47	+409
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	733	△398	△1,132
現金及び現金同等物の期首残高	6,508	7,837	+1,329
現金及び現金同等物の中間期末残高	7,241	7,439	+197

■営業CF：税金等調整前中間純利益1,002百万円（前年同期比277百万円増）、
売上債権減少536百万円（前年同期比14百万円収入増）、仕入債務増加484百万円（前年同期比454百万円収入増）、棚卸資産増加639百万円（前年同期比348百万円収入減）、減価償却費737百万円
■投資CF：有形固定資産取得による支出1,461百万円
■財務CF：借入金の純減額212百万円、配当金支払335百万円

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2027年3月期 第2四半期決算の概要
Ⅲ. 2027年3月期 通期決算予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 予想サマリー

YUKEN Living with Hydraulics

前期比増減

単位：百万円

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想		
			増減額	増減率
売上高	32,864	34,500	+1,635	+5.0%
営業利益	1,728	1,750	+21	+1.2%
経常利益	1,697	1,700	+2	+0.1%
純利益	1,044	1,000	△44	△4.2%

（注1）純利益は親会社株主に帰属する当期純利益
（注2）為替レート　1USD＝150.97円（'26/3期実績）、160.02円（'27/3期上期実績）、155.00円（'27/3期下期社内レート）

売上高

■日本市場はJPN（株）を連結に取り込み前年同水準を確保、インド売上拡大を見込む
■中国市場は悪化基調から一転、母機輸出増等に伴う在庫調整後の回復を見込み、中国に輸出をする台湾も増収に

利　益

■人件費・原材料価格の上昇は継続。内製化推進等の製造原価低減策の実行を行うも営業利益率は'26年3月期比微減を見込む
■社内為替レートはドル円で155円、上期の為替差益は61百万円。下期も為替差益発生の可能性も
■上期までの進捗状況は順調。足下の受注状況に問題見られず

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 下期 エリア別事業環境認識

YUKEN
Living with Hydraulics

世界経済

■中東情勢を背景としたインフレ圧力継続も、AI･データセンタ関連投資が世界的な設備投資を牽引し景気は底堅く推移

日本

■建設機械は輸出が下支え、工作機械向け需要は高水準を維持

■射出成形機は回復の兆し、船舶、エネルギー関連等が好調を維持

中国

■不動産不況で内需低迷も、輸出とEV、半導体、AI関連設備向け投資は堅調

■新興メーカが成長中、供給過多によるデフレは継続

インド

■全般的には引き続き高い経済成長が持続の見込みから、増産体制維持

■工作機械・製鉄機械・ゴム成形・エネルギー分野で需要拡大

その他

■台湾は中国の需要底打ちと、インド向け輸出により高水準の生産体制維持

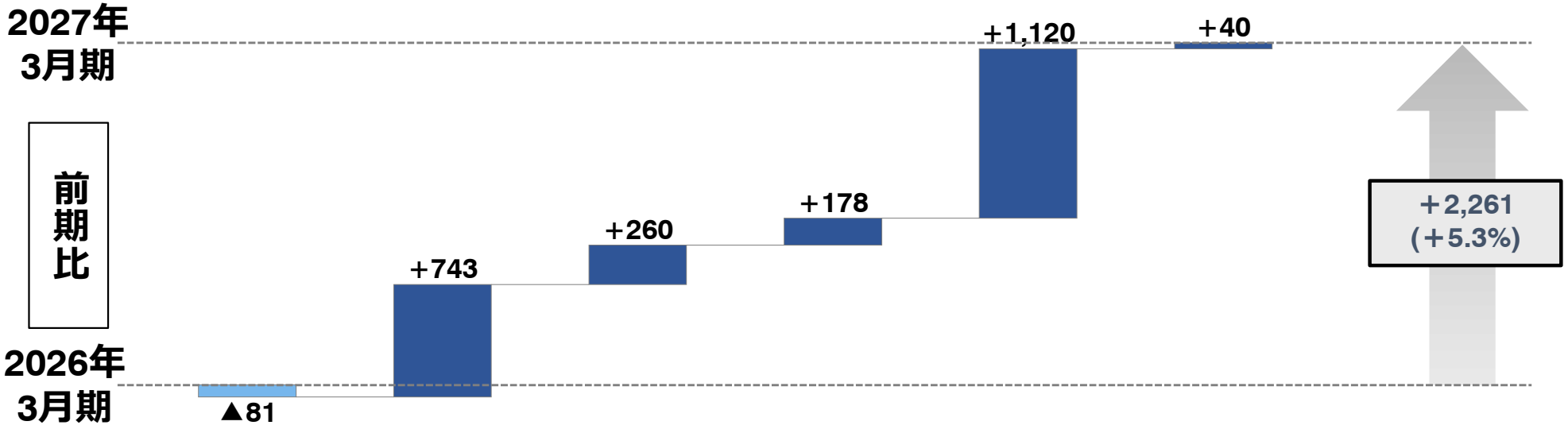
■韓国・アセアン・欧州も堅調を維持

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期通期予想 所在地別売上高

（ご参考：連結消去前）

単位：百万円



	日本	中国	台湾	韓国	インド アセアン	欧州	合計
2026年3月期	17,834	7,809	5,060	2,025	8,951	620	42,299
2027年3月期	17,754	8,553	5,320	2,203	10,071	660	44,560
増減	△81	+743	+260	+178	+1,120	+40	+2,261

（注）日本：`26年3月期は油研工業(株)・(株)ユケンサービスの合計
`27年3月期は油研工業(株)・(株)ユケンサービス・JPN (株)の合計
中国：油研 (上海) 商貿有限公司・油研 (仏山) 商貿有限公司・油研液圧工業 (張家港) 有限公司
油研工業 (香港)有限公司の合計
インド・アセアン：YUKEN INDIA・GROTEK・YUKEN SEAの合計

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 設備投資と減価償却

設備投資・減価償却の実績と計画

単位：百万円

	2024年3月期（実績）	2025年3月期（実績）	2026年3月期（実績）	2027年3月期（下段2Q実績）
設備投資額	1,611	1,909	2,541	2,100 (1,345)
減価償却費	1,201	1,353	1,386	1,500 (737)

2027年3月期（計画）の設備投資の内容

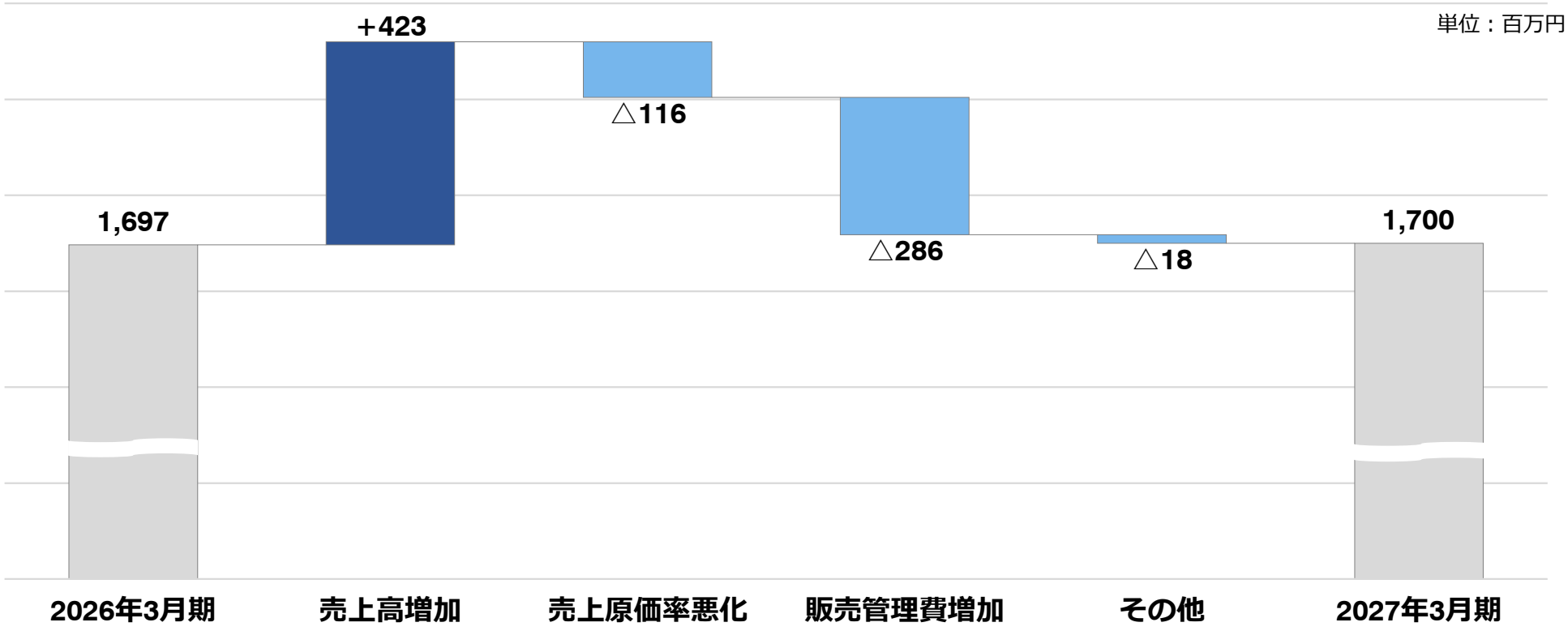
地　域	投資額（下段2Q実績）	投資内容
日　本	650 (368)	生産能力増強、省人化、老朽化更新、環境改善、 サスティナビリティ対応
海　外	1,450 (976)	台　湾：部品内製化、老朽化更新
		インド：製造品質向上、設備の自動化、研究開発投資
		中　国：生産性向上、老朽化更新、環境改善

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 経常利益増減要因

主な前期比増減要因（経常利益）

売上高増加	■中国市場の売上底打ち、インド市場の売上回復
コスト増	■インフレ、人件費増によるコスト増で売上原価、販売管理費増
その他	■支払利息の増加等



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

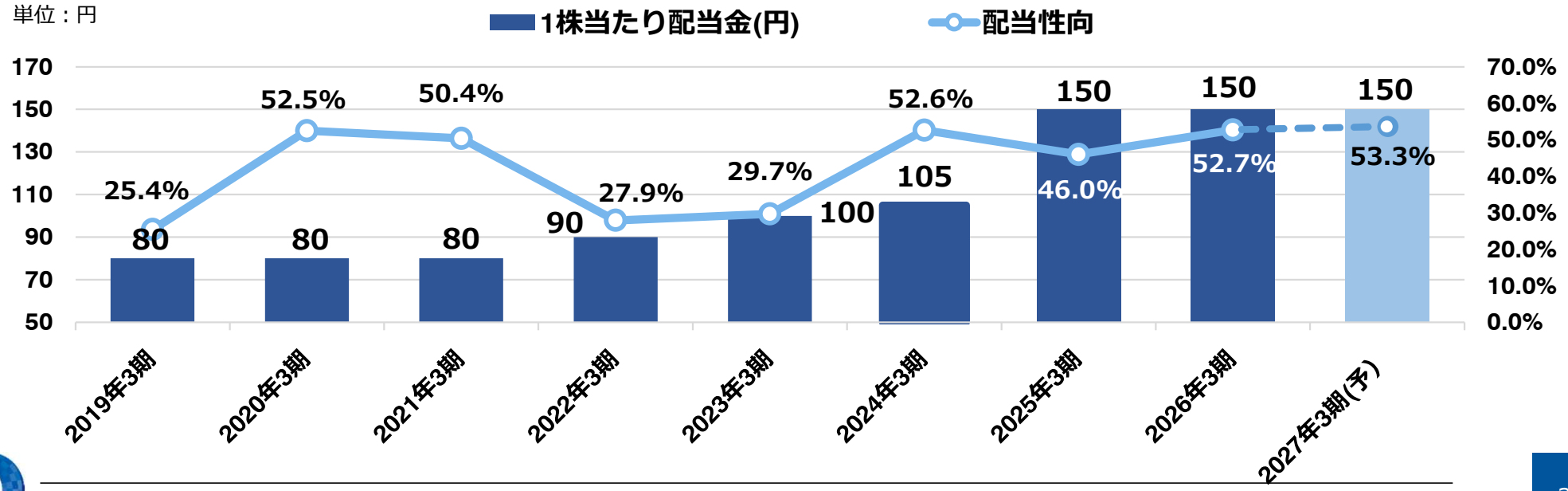
2027年3月期 株主還元

資本政策

①配当政策　… 配当性向50%程度を基準とする（基本方針「安定的な配当の継続」）
②自己株取得 … 総還元性向70%を目途に自己株取得を実施
・2025年3月期決算に伴う自己株取得
→取得株式総数234,100株、取得総額6.7億円、総還元性向約100%
・2026年3月期決算に伴う自己株取得
→現状実施せず。機動的な実施の可能性は排除せず
・2027年3月期決算に伴う自己株取得
→総還元性向70%を目途に実施

配　当

・2026年3月期 期末配当：1株につき150円（中間期60円、期末90円）、配当性向52.7%
・2027年3月期 配当予想：1株につき150円（中間期60円、期末90円）、配当性向53.3%



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2027年3月期 第2四半期決算の概要
Ⅲ. 2027年3月期 通期決算予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン ~YUKEN GROUP VISION 2030~

YUKEN
Living with Hydraulics

経営理念

『Living with Hydraulics』
~油圧と共に生きる~

油研グループは「油圧と共に生きる」を経営理念として、顧客のニーズに寄与する価値を創造・提供していくことを使命とし、グローバルサプライヤーとして広く産業の発展に貢献していく企業であり続ける

ありたき姿

これから100年、油圧専業メーカとして
品質と信頼で社会に貢献する真のグローバル企業

– 真のグローバル企業の定義 –

1．全世界に認知されるブランド力を保有する企業
2．グローバル製造業として最適な供給体制を保有する企業
3．ESGを意識した経営を積極的に行い社会に貢献する企業
4．ステークホルダーから信頼される企業

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン ~YUKEN GROUP VISION 2030~

YUKEN Living with Hydraulics

サマリー

私たち油研グループは現状を取り巻く環境とこれまでの反省を踏まえ、2030年までの中長期ビジョンを策定しました。2022年度～2030年度を3年ごとの３ステップとし、ステップごとの到達目標を定めました。最終ステップは数値化せず目指すべき姿に留めています。

第3期（Step３）　真のグローバル企業への進化

2028～30 Step3

★ 挑戦による事業の拡大
- ❶ 新たな市場（航空宇宙、水圧等）への挑戦
- ❷ 新たな事業（油圧ロボット等）への挑戦
- ❸ 未開地への油圧技術浸透に挑戦

現在

第2期（Step２）　成長戦略の実践

2025～27 Step2

★ 拡大による利益率向上
- ❶ 高収益市場でのシェア拡大
- ❷ 再投資による最先端化製品の拡大
- ❸ 環境に配慮した製品群の拡大

第1期（Step１）　ありたき姿への基盤作り

2022～24 Step1

★ 投資と再編による基盤作り
- ❶ 工場・製品の最先端化に向けた積極的な投資
- ❷ 品質・供給量を担保したサプライチェーン構築
- ❸ 新たな基盤を支える本社機能の再編
- ❹ 全てを支える人の多様化推進と組織再編

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン 中期経営計画（Step2）進捗状況

Step2目標に対する進捗

収支指標（2028年3月期）

	連結売上高	海外売上比率	営業利益	経常利益
計画	370億円	65%以上	30.0億円	30.0億円
実績（2026年3月期）	328億円	61.3%	17.2億円	16.9億円

財務指標（2028年3月期）　株主還元（2026年3月期～2028年3月期）

	自己資本比率	ROE	配当性向	総還元性向
計画	40.0%以上	8.0%以上	50.0%目途	70.0%目途
実績（2026年3月期）	48.3%	4.4%	52.7%	52.7%

成長投資（2023年3月期～2028年3月期）　ESG目標（2028年3月期）

	設備投資	開発投資	CO_2排出量	環境投資
計画	100億円	25億円	30.0%削減※	1億円
実績（2026年3月期）	78.6億円（'23/3月期 ～ '26/3月期累積）	18.1億円（'23/3月期 ～ '26/3月期累積）	11.4%削減	0.4億円

※YUKEN INDIAを除くグループ製造拠点合計、2022年３月期比
成長著しいYUKEN INDIAについては、原単位管理とするなど
適切な方法を設定し、'29年3月期より目標管理を致します

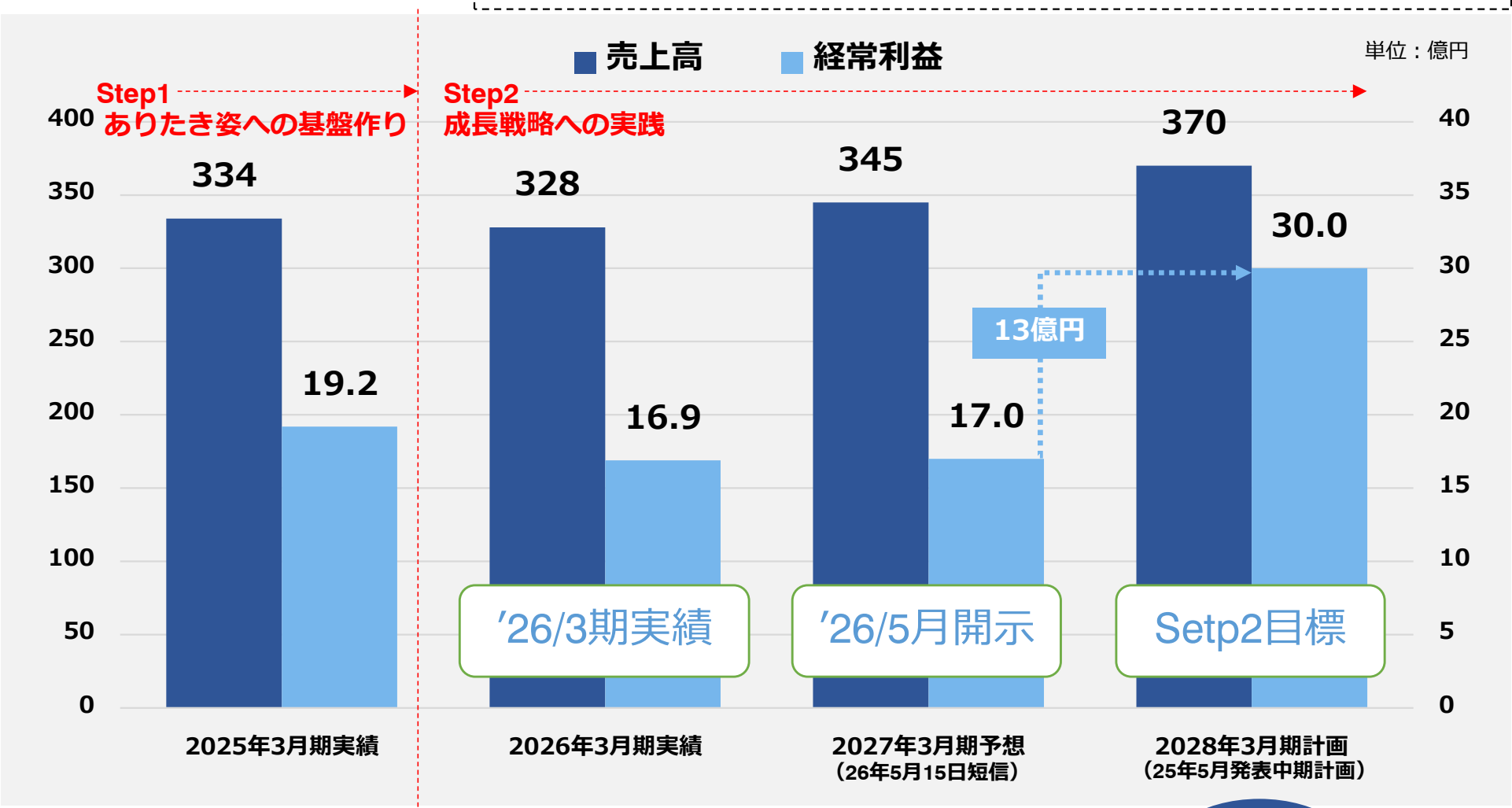
© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン 中期経営計画（Step2）進捗状況

YUKEN Living with Hydraulics

売上・収支の実績と計画

2027年3月期はStep2の2年目、足下売上は目標に向け順調に推移している認識。一方、利益面は30億円の経常利益目標に対しテコ入れが必要な状況。GSC構想の実現、インド市場の成長取込み等、あらゆる方策にて達成を目指す方針。



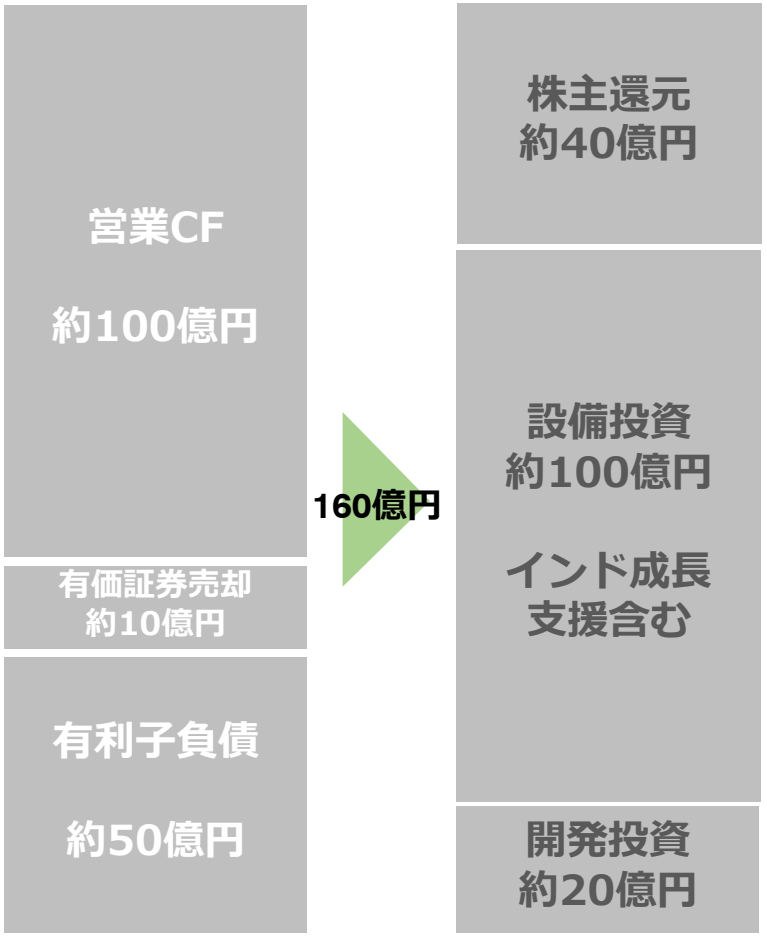
ROE	5.4%	4.4%	・・・	8.0%

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

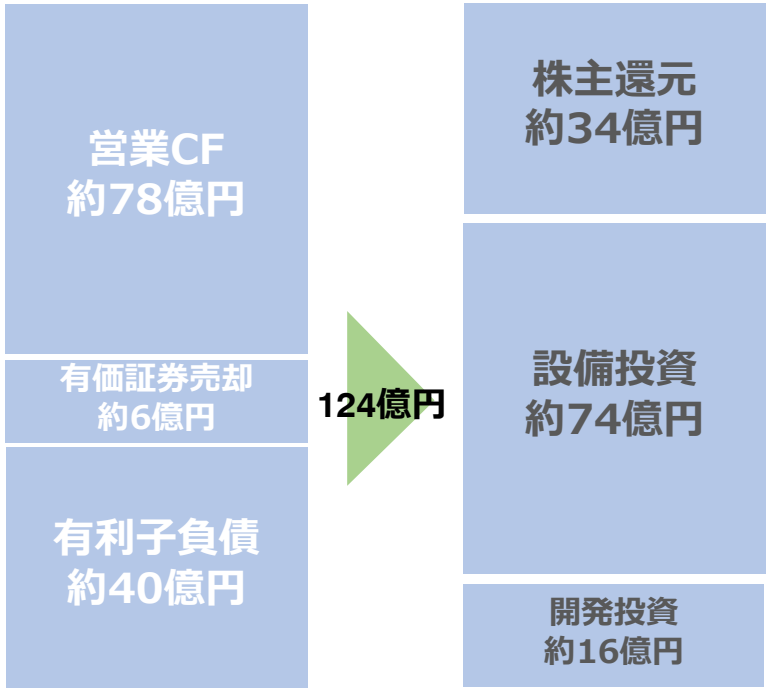
長期ビジョン 中期経営計画（Step2）進捗状況

キャッシュアロケーション進捗

Step1～２計画
（2024年3月期～2028年3月期 累積）



Step1～2実績
（2024年3月期～2027年3月期第2四半期 累積）



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン 中期経営計画（Step2）課題

1）YUKEN INDIAへの支援拡大

- インドへの投資継続。投資内容は生産能力拡大、品質強化が中心
- 品質向上に向けた人的支援拡充（生産技術、品質保証、機械設計）
- ギアポンプの拡販

2）アメリカ市場でのシェア拡大

- アメリカで生産を開始した小型システム製品の拡販
- 有力販売店とのベンダー契約推進、代理店とのシナジー強化
- 中南米代理店との関係強化

3）高付加価値商品開発と提案営業の推進

- 蓄積された要素技術と製品の融合
- 国内外特定大手需要先との連携強化、特定客先向製品開発
  （複数のコア先の確保と深堀）

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン 中期経営計画（Step2）課題

4）グローバルサプライチェーン（GSC）構想の仕上げ

- 製品移管の推進【継続】（品質維持のための品質管理体制・監査体制の整備、材料・部品のグローバル共通化の検討・推進）
- 内製化の推進【継続】

5）優良M&A先の検討

- 当社の技術幅の拡大、市場の裾野拡大に資するクロスボーダー案件を中心に適宜アプローチ

6）ESG経営の実践

- サステナビリティ推進委員会での活動を継続
- CO2排出量削減目標：2028年3月期△30%（2022年3月期比）
  日本、インドで太陽光発電導入
  環境証書購入、CO2フリー電力の活用も検討

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2027年3月期 第2四半期決算の概要
Ⅲ. 2027年3月期 通期決算予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

会社概要

会社名	油研工業株式会社
本社所在地	神奈川県綾瀬市上土棚中四丁目4番34号
設立年月日	1956年10月10日
資本金	41億910万円
上場区分	東証スタンダード（コード：6393）
従業員数	連結1,412名、単体373名
代表者	宮坂 篤
事業内容	油圧製品、油圧システム製品、環境機械の開発・製造・販売
国内製造拠点	本社・相模事業所、袋田工場
国内販売拠点	東京支社、大阪支社、札幌営業所、長野営業所、相模営業所、 名古屋営業所、広島営業所、福岡営業所
国内グループ会社	株式会社ユケンサービス、JPN株式会社、株式会社北陸油研
海外グループ会社	油研（上海）商貿有限公司、油研（仏山）商貿有限公司 油研液圧工業(張家港)有限公司、油研工業（香港）有限公司 台湾油研股份有限公司、韓国油研工業株式会社 YUKEN INDIA LIMITED、YUKEN SEA CO., LTD. YUKEN EUROPE LIMITED、Yuken North America Corporation Grotek Enterprises Private Limited

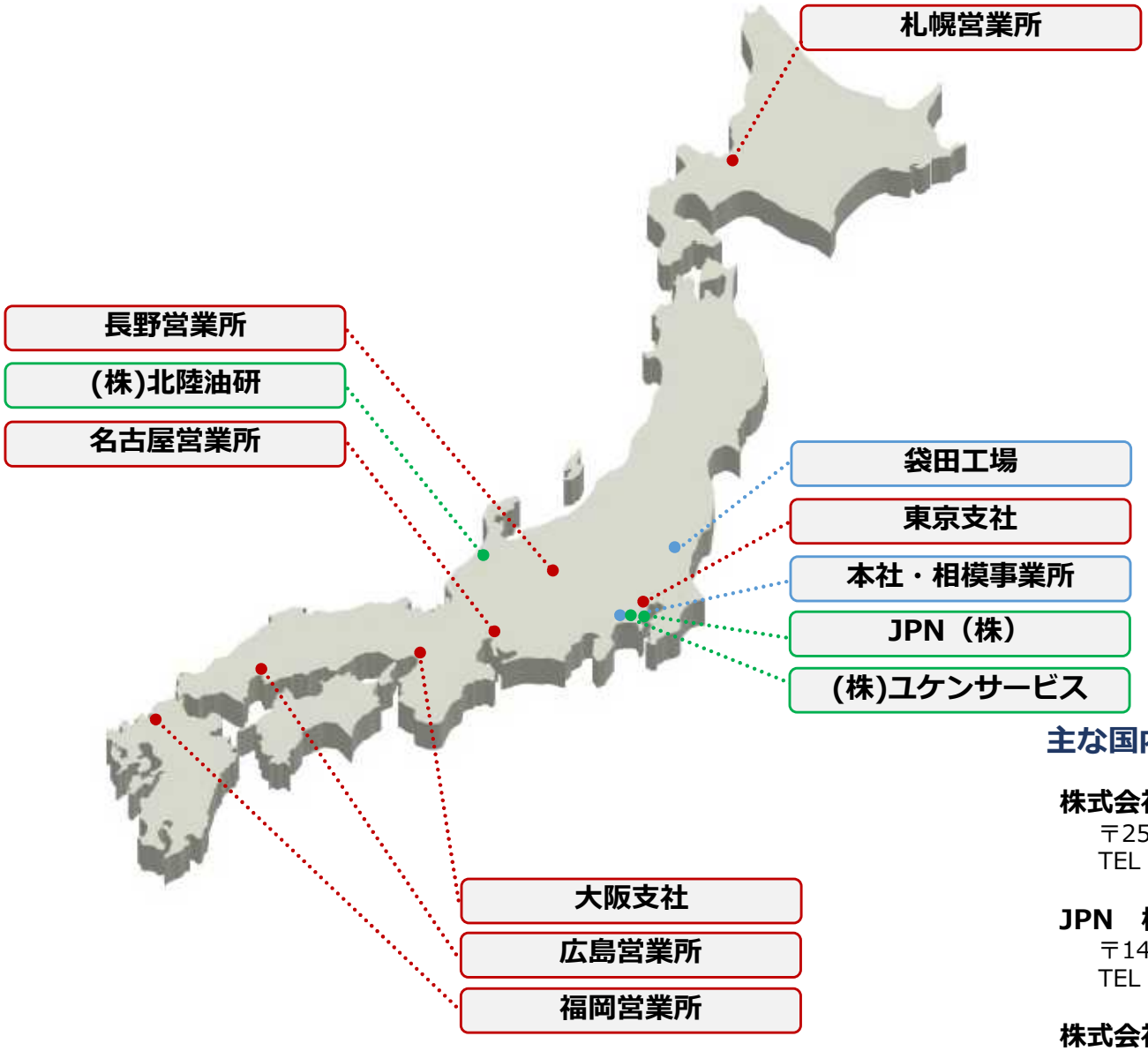


代表取締役社長　宮坂 篤

（2026年9月末現在）

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

国内事業拠点



● ＝販売拠点
● ＝生産拠点
● ＝関係会社

袋田工場/茨城県



本社・相模事業所/神奈川県



主な国内関係会社

株式会社　ユケンサービス
〒252-1113　神奈川県綾瀬市上土棚中四丁目4番34号
TEL：0467-77-0101　FAX：0467-77-5005

JPN　株式会社
〒146-0093　東京都大田区矢口三丁目28番1号
TEL：03-3756-2313　FAX：03-3756-2343

株式会社　北陸油研
〒920-0059　石川県金沢市示野町西117
TEL：076-268-9779　FAX：076-268-9177

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

海外事業拠点

YUKEN
Living with Hydraulics





生産拠点
販売拠点

Since 1980
リバプール Liverpool

Since 2007
ソウル Seoul

Since 2019
ロサンゼルス Los Angeles

Since 2006
張家港 Zhangjiagang

Since 2010
上海 Shanghai

Since 2013
仏山 Foshan

Since 1969
台中 Taichung

Since 1976
ベンガルール Bengaluru

Since 1978
香港 Hong Kong



Since 2012
バンコク Bangkok



製造拠点	バルブ	ポンプ	ユニット	環境機械
本社・相模事業所	●	-	●	●
袋田工場	-	●	-	-
台湾	●	●	●	-
中国	●	●	-	-
インド	●	●	●	●

販売地域	バルブ	ポンプ	ユニット	環境機械
日本	●	●	●	●
中国	●	●	●	●
インド	●	●	●	●
その他アジア	●	●	●	●
欧米	●	●	●	-
その他	●	●	●	-

※円の面積は正確な取扱高ではなく、イメージとしてご認識下さい

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

会社沿革

拠点設立

1929 結城工作所として創業

1945 茨城・袋田工場を新設

1956 油研工業株式会社に改組

1969 台湾油研股份有限公司を設立



台湾台中市

1970 神奈川・綾瀬に相模工場を新設

1976 YUKEN INDIA LIMITEDを設立

1978 油研工業（香港）有限公司を設立

1980 YUKEN EUROPE LIMITEDを設立

2004 本社・藤沢工場を相模事業所に統合

2006 油研液压工業(張家港)有限公司を設立



中国江蘇省張家港市

2007 韓国油研工業株式会社を設立

2010 油研（上海）商貿有限公司を設立

2012 YUKEN SEA CO., LTD.を設立

2013 油研（仏山）商貿有限公司を設立

2019 Yuken North America Corporationを設立

2025 インドGROTEK社を連結化

2025 JPN株式会社をM&Aにより子会社化

1929
1940
1950
1960
1970
1980
2000
2010
2020
2025

商品開発

1940 ベーンポンプの国産化に成功



DSG-01 電磁弁



EHシリーズ



ベーンポンプ

1978 直動形電磁弁Kシリーズ販売開始（主力製品）
（日刊工業新聞10大新製品賞受賞）

1987 EHシリーズが機械振興協会賞を受賞
（射出成形機市場向けに開発）



LSV(H)Gシリーズ

2001 高速リニアサーボ弁
LSV(H)Gシリーズ発売（電気-油圧技術の融合）

2008 ASR シリーズAC サーボモータ駆動ポンプ発売
（省エネルギー製品）



ASRシリーズ



A3HMシリーズ

2020 A3HMシリーズ高圧可変ピストンポンプ発売
（建設機械・車両用）

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

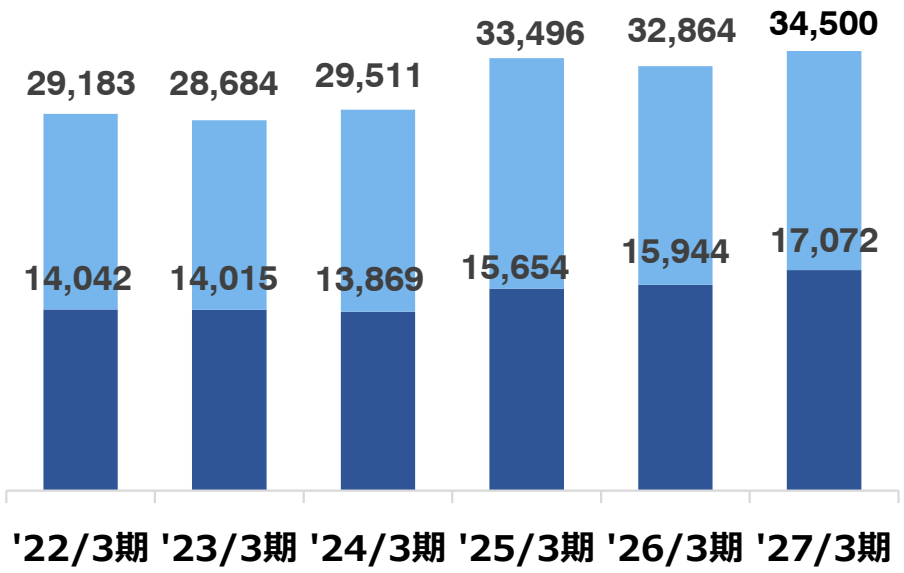
業績推移

※27/3期通期の各数値は5月15日東証発表の予想数値を記載

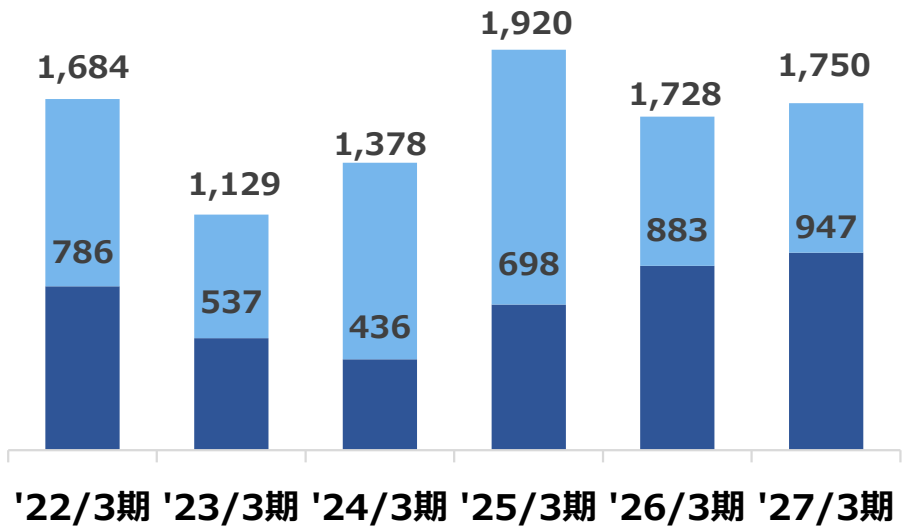
単位：百万円

■第2四半期 ■通期

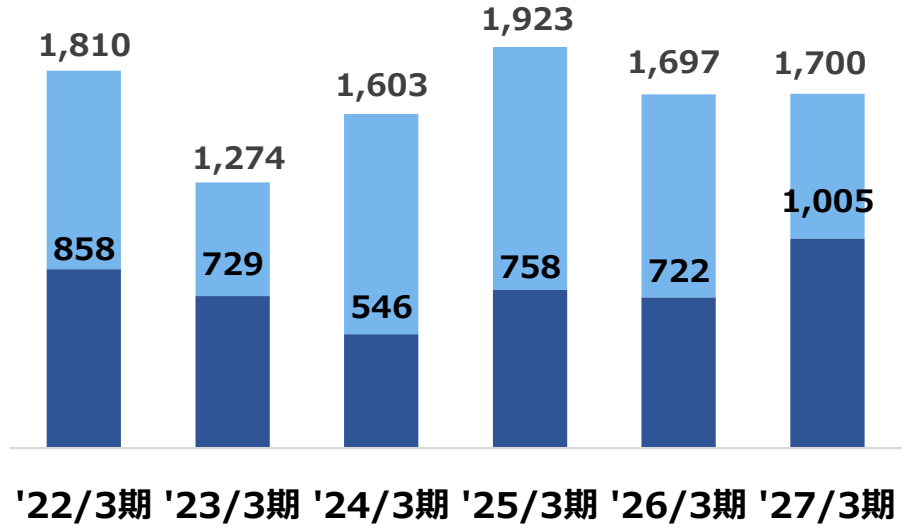
■売上高



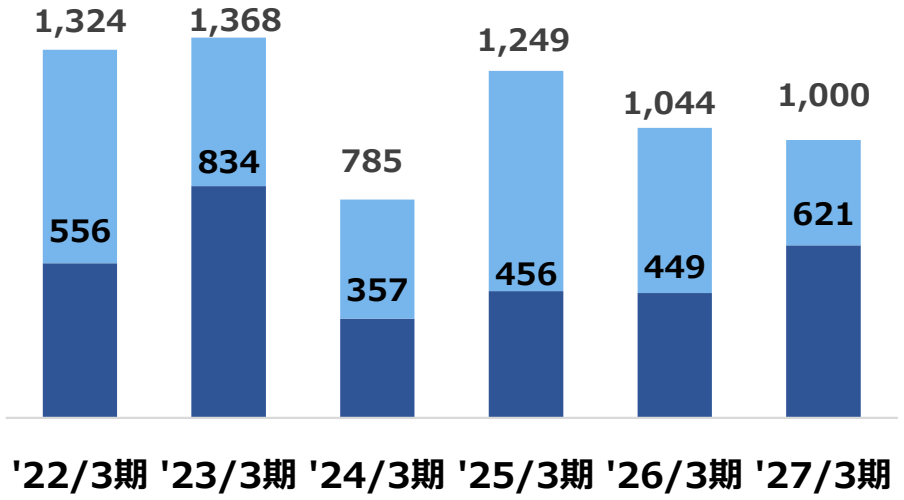
■営業利益



■経常利益



■親会社株主に帰属する中間（当期）純利益



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

成長戦略　①グループ連携強化

グローバルサプライチェーン(GSC)構想の実現

グループ連携強化によるシナジー発揮

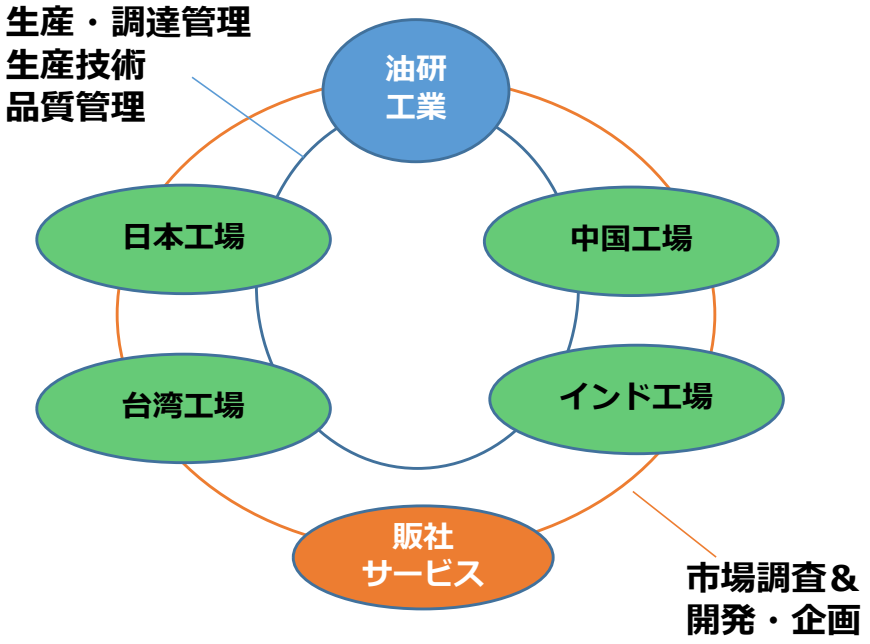
適材適所、相互供給、情報連携、グループ統制により効果的行動の迅速化

1　生産拠点連携によるシナジー

① 油研工業をコントロールタワーとする生産管理
② 地の利を活かした生産体制
③ 拠点間相互供給による納期・コストの最適化

2　グループ連携によるシナジー

① 販社も含めた情報統制による生産計画の最適化
② 組織的市場調査による開発計画の最適化
③ 組織的販売戦略による市場浸透の深化



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

成長戦略　②インド市場の取込み

インドのグループ会社概要

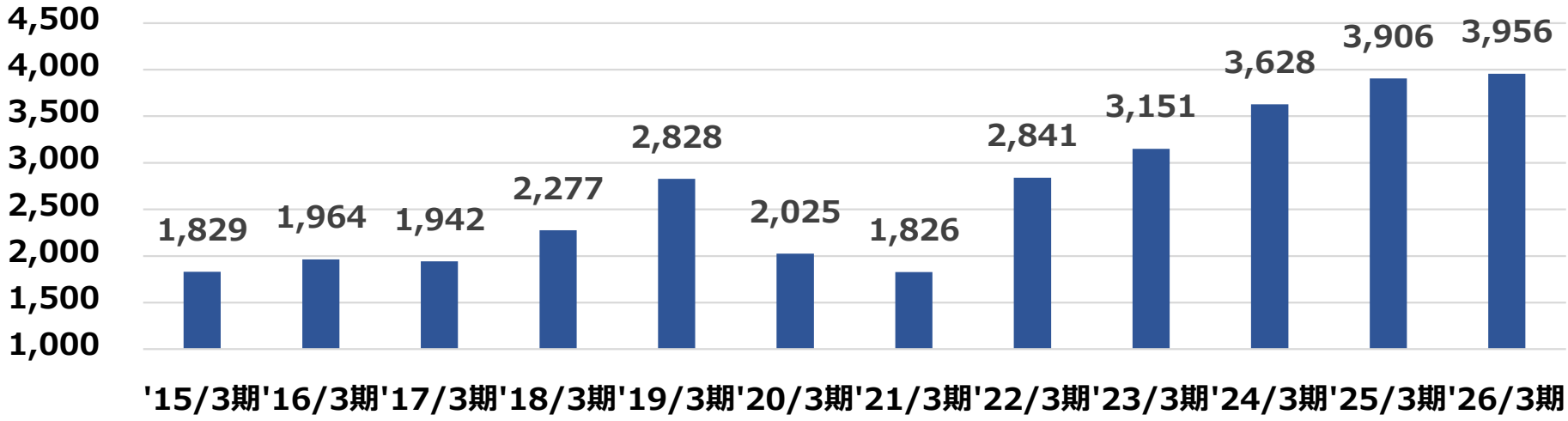
会社名	YUKEN INDIA LIMITED
所在地	Bengaluru INDIA
設立	1976年
資本金	135.84百万インドルピー（油研工業持株比率47.0%） ～インド国立証券取引所上場
従業員数	約500名
主要子会社	GROTEK(鋳物製造）CORETEC（電装品等製造）
主要製品	油圧製品、システム製品、環境機械



新標準機器工場

YUKEN INDIA LIMITED 単体 売上高推移（期別）

単位：百万INR



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

成長戦略　②インド市場の取込み

YUKEN INDIA LIMITED

YE3工場



インド市場の需要に対する生産能力確保を目的とした標準機器工場を新設。本格稼働時には現状の倍以上の生産能力に

ギアポンプ工場



インド国内の建設、農業市場の増加を取込むべく、ギアポンプ専用工場化による生産能力を増強

GROTEK

鋳物工場入口



Line-3



小型製品生産量拡大に向け、3本目のライン（Line-3）を増設中。グループ内供給の拡大を図る

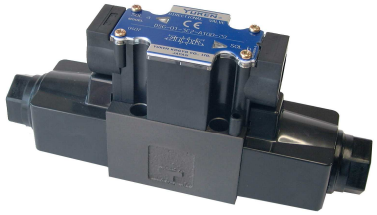
© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

成長戦略　③次世代主力製品開発

次世代型グローバル製品の開発

近未来の世界要求に合致

1 **DSG-01 Series**
1/8口径電磁切換弁



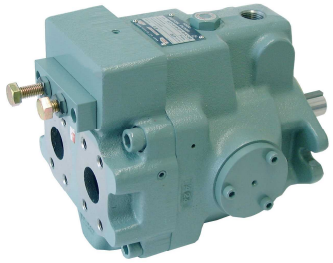
日本、インドの2拠点で生産。
2027年4月の市場投入を目指す。

① 納期対応力を“強み”とした世界シェア（世界販売台数）の増加
② 原産地格差の無い業界最高水準のグローバル機種開発と市場投入

DSG-03 Series
3/8口径電磁切換弁

③ DSG-01の開発ノウハウを活かしDSG-03の開発を進める

2 **A Series**
可変ピストンポンプ



最近の需要変化を捉え開発方針を一部変更。
世界最高の高効率を目指す。

① 軸受け、摺動部の損失軽減
② 効率的な構造の追求

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

油圧機器需要部門別出荷額見通し

単位：百万円

	26年3月期実績			27年3月期見通し（4月時点）			27年3月期見通し（10月時点）		
		構成比（%）	前期比（%）		構成比（%）	前期比（%）		構成比（%）	前期比（%）
土木建設機械	161,913	44.9	▲1.1	164,500	44.4	+1.6	164,500	44.1	+1.6
農業機械	5,894	1.6	▲3.7	6,150	1.7	+4.3	6,150	1.6	+4.3
プラスティック加工機械	5,158	1.4	±0.0	4,970	1.3	▲3.6	4,970	1.3	▲3.6
工作機械	11,626	3.2	▲3.8	12,540	3.4	+7.9	12,540	3.4	+7.9
金属一次	4,422	1.2	▲20.3	4,150	1.1	▲6.2	4,150	1.1	▲6.2
金属二次	6,299	1.7	▲0.4	6,430	1.7	+2.1	6,430	1.7	+2.1
自動車（特装車）	7,432	2.1	+0.3	7,290	2.0	▲1.9	7,290	2.0	▲1.9
産業車両	6,821	1.9	▲5.7	6,520	1.8	▲4.4	6,520	1.7	▲4.4
船舶	11,050	3.1	▲2.5	11,540	3.1	+4.4	11,540	3.1	+4.4
小　　計	220,615	61.2	▲1.9	224,090	60.5	+1.6	224,090	60.1	+1.6
その他	139,810	38.8	+7.0	146,500	39.5	+4.8	148,800	39.9	+6.4
輸出	112,877	31.3	+9.3	118,500	32.0	+5.0	120,800	32.4	+7.0
その他	26,933	7.5	▲1.5	28,000	7.6	+4.0	28,000	7.5	+4.0
合　　計	360,425	100.0	+1.4	370,590	100.0	+2.8	372,890	100.0	+3.5

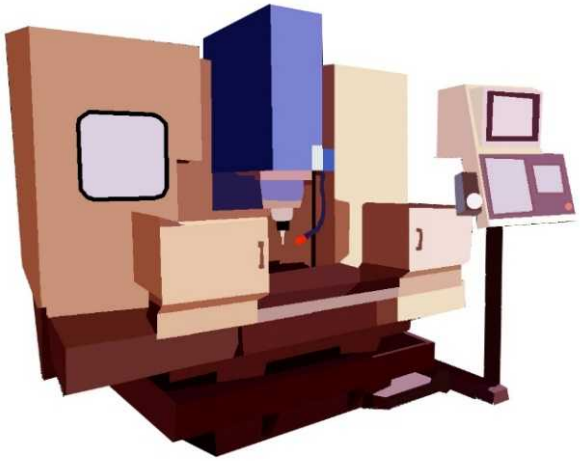
（出所）日本フルードパワー工業会（2026年10月）

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

油圧の使用例

工作機械

鉄・アルミ・プラスチックなどの工業素材を、切削・研削・研磨などの工程を用いて所定の寸法・形状に加工する機械



【油圧使用箇所】

チャック機構：

工作機械で加工する工業素材 (ワーク)が動かないよう固定する機能(＝チャック)

ホーニング機構：

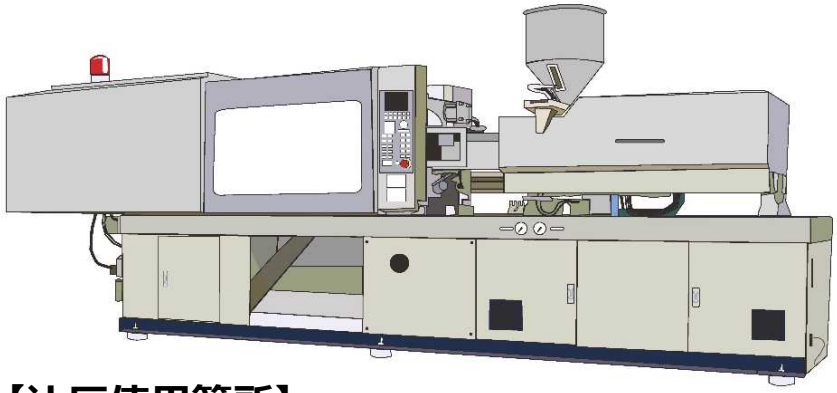
ワークの内面を精密に研磨するための回転工具の操作

研削盤テーブル送り機構：

ワークの表面を砥石で仕上げる研削盤のテーブルの往復運動の制御

射出成形機

プラスチック素材を熱で溶かし、金型に流し込んで成形する機械（溶かしたプラスチックを高圧・高速で金型内に射出することで、複雑な形状の製品を精密かつ大量に生産）



【油圧使用箇所】

型締め：樹脂の注入により金型が開かないよう締め付け

ノズルタッチ：金型に樹脂を注入するためノズルを固定

射　出：溶かした樹脂の金型への注入

保　圧：固まるまで樹脂の圧力を保持

型開き：固まった成形品を取り出す金型操作

突出し：金型内成形品を取出すためのピン操作

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

JPN株式会社のご紹介（2025年10月子会社化）

会社概要

- 社名　：JPN株式会社（当社出資比率100%）
- 資本金：39.8百万円
- 設立　：1977年10月
- 従業員数　:約40名（嘱託、パート含む）
- 主要製品　:ミニ油圧シリンダ、揺動アクチュエータ、油圧クランプ関係機器 等
- 取得時期　：2025年10月28日に100%の株式を取得し当社グループ傘下へ

製品群

油圧シリンダ



ミニ油圧シリンダ〈標準品〉 3.5MPa～21MPa



ロボット制御用
サーボ弁付き低摩擦油圧シリンダ



医療機械向け
テレスコープシリンダ

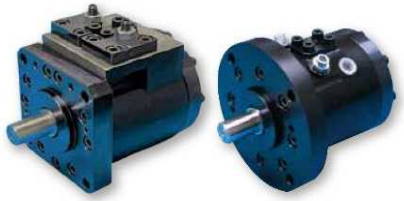


磁気近接スイッチ

揺動アクチュエータ



空気圧ロータリーアクチュエータ
ニューマリード



油圧ロータリーアクチュエータ
ハイドロロータ

油圧クランプ関係機器



ミニ油圧クランパー



油圧クランプシステム機器

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2025年12月開催時のご質問に対するご回答

ご質問	ご回答
日本の利益率が低いのは、本部経費など含まれるからでしょうか。もしそうでないのであれば、営業利益率を上げるための施策を教えてください。	日本の利益率が飛び抜けて低いということはない。今期は特に人件費上昇が大きく、市場環境も踏まえて値上げで対抗していく方針ですが、値上げが人件費、固定費の増加に追い付いていないのが収益を押し下げている要因。今後も市場動向に合わせる必要があるが、可能な限り値上げで固定費上昇に追いつきたいと考えている。収益改善は、計画では売上370億円に対して、30億円の利益を確保し、'28年3月までの達成が目標。そのためには、収益性の高い製品を重点的に拡販するしかなく、鋭意取り組んでいるところ。
アメリカを拡大させる余地があるとのことですが、その具体策についてうかがいたい。自力か、あるいはパートナーがいるか。また3年、5年といった時間軸についてもうかがいたい。	現地のパートナーの力も活用しつつ、自前で増やしていく部分もある。米国のパートナーはアメリカ東海岸にあり、当社の拠点はアメリカの西海岸。米国の油圧市場は、おおむね、東が7割、西が3割なので、東側はパートナーに開拓していただき、西側は自社で増やすことを考えている。

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2026年6月開催時のご質問に対するご回答

ご質問	ご回答
インドでのギアポンプ生産について、生産規模、想定する市場、顧客、将来の売上寄与など、教えてください。	昨年12月に工場を稼働したが、ギアポンプの生産自体は、インド油研が20年前から、1,000台/月と少量ながら手掛けていた。今般、工場の生産能力を12,000台/月へと拡大、現状は3,000台/月を生産している。主な需要先は車両、特に農業用のトラクターが中心。将来的には工場をフル稼働させたいと考えており、3年後には月産約10,000台程度の規模になると想定。
インドで生産したギアポンプは、インド以外への地域にも販売する予定ですか。 マーケティングは、近隣アジア地域が中心になりますか。	最も期待しているのは米国市場。米国では一般のピックアップトラックに、簡便に装着できるギアポンプがよく使われており、取り扱うアフターパーツ店舗が各地に多数ある。ギアポンプ自体は小型で構造も単純なため単価は高くないが、仮に年間1万台販売できれば、月間で4,000万～5,000万円、年間で約6億円程度の売上は見込める。

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

油研グループは75周年にむけ成長を続けていきます



―注意事項―

本資料に掲載されている、油研工業株式会社の業績予想など、実績値でないものは、将来の業績に関する当社独自の見通しであります。
これらは、現在入手可能な情報から得た情報をもとに当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。
そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は、記述されている業績予想および戦略と大きく異なる可能性があることをご了承ください。

内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しましては、当社は一切の責任を負うものではありませんのでご了承ください。

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.